

[第133回藤樹人間学塾のご案内]

皆さま

令和 4年 12 月



主 催 NPO法人高島藤樹会

- 日 時 令和 5年 1月 7日(土) 15時~17時
- 場 所 高島市安曇川公民館(高島市安曇川町田中89) ☎0740-32-0003
- テーマ 「藤樹先生に学ぶ人間学」
テキスト 中江藤樹著・加藤盛一校註『鑑草』(岩波書店)p.192~(用意します)
塾 長 田中 清行 (090-1026-7882)
- 懇親会 17時30分~ 場所 丸三旅館(高島市安曇川町西万木 1045-1)
参加費 6,000円★参加いただける方は、12/27までに田中までご連絡ください。



本塾は藤樹先生の教えを学び、人間いかに生きるべきかを共に考える形で進めています。

- 12月3日(土)、安曇川公民館で第132回藤樹人間学塾を開きました。今回は大阪、京都からの参加の方を入れて5名でした。

■ テキスト

中江藤樹著『鑑草』の第三巻不嫉妬毒報の第9話、総評

■ あらすじ

第9話「衛の霊公の妃、妾の子を慈しみて世継ぎとする、世継ぎの母、また妃によく仕え互いに睦む」。

総評「万物一原の理なれば、妾になるがごとき哀れむべき人に情を垂るべし」

■ 配布資料

- ・ アルボムツレ・スマナサーラ『怒らないこと』の主たる部分
- ・ 致知「鈴木秀子「人生を照らす言葉」」他

■ 今日のポイント

- ・ 衛の霊公の妃は、妾に子が出来たことを嫉妬することなく、その子を大切に育てて世継ぎにしたので、妾も妃によく仕え、霊公の子孫は繁栄して国は治まり、民は恵みを十分受けた。
- ・ 怒りが生まれた瞬間、からだに猛毒が入ってしまう。怒る人は病気になって治らない。怒りが生まれると、「これは怒りだ。怒りだ」と自分を観察すると怒りが収まる。
- ・ 見返りも期待せず、ボランティアで他人を助けることに、時間やエネルギーを費やす人たちには、ストレスや憂鬱に苦しむ率ははるかに少ないらしい。したがって長寿を得られる。

■ フリートーク

- ・ 「今回の話は実話なので、説得力があった」
- ・ 「怒りを収める方法としては深呼吸することは知っていたが、新しい気づきがあった」
- ・ 「なんの見返りもなく、ボランティアをするという話は、中桐万里子さんのテイク・アンド・ギブの話とつながった」

等の意見をいただきました。ありがとうございます。皆で学びと議論が深まります。

学ぶは愉し！人間学に関心のある方はどうぞご参加ください。参加費は無料です。